

平成26年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立吉舎中学校

1 国語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入(%)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	話す・聞く能力	+2.0	-6.5	○「漢字を読む」「説明文の内容を読む」問題については全国平均を上回った。反復学習や丁寧な読み取りをすることを心がけてきた ●書く能力については学力差が激しく、書く領域では90%以上の生徒も多い反面20%以下の生徒も4名いる。	・「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか。」という問いに対して「ある」と答えた生徒が8割をこえている。 ・月に本を1冊も読まない生徒が2割をこえている。	・学力差が激しいので、基礎事項を抑える時間と活用力・表現力思考力を鍛える時間をめりはりをつけて行う授業の工夫を考えていく。 ・短作文など日々できることを授業中にモジュールのような形でとり入れるなど、書くことを習慣化していきたい。
	書く能力	+1.0	-7.2			
	読む能力	+1.0	-0.7			
	言語	+1.0	-3.5			
第2学年	話す・聞く能力	+2.0	+0.1	○「読む能力」については、全国平均を若干上回った。キーになる言葉などにこだわらせるなど丁寧に読み取りを指導した。 ●書く能力については、全国平均を下回った。無回答が4名いる。	・「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか。」という問いに対しては9割の生徒が感じると答えている。 ・「日常生活の中で自分の思いや考えを積極的に話していますか」という問いに対する「話している」という答えが全国平均より20%上回っている。	・「書くこと」については短作文などを取組み「書くこと」を習慣化していきたい。 ・「書く」ための手法の具体的な指導を日々行っていく。(書き出し、まとめの工夫など)
	書く能力	+1.0	-5			
	読む能力	+2.0	+4.5			
	言語	+1.0	+0.3			
全体	○読む能力については、少しずつ力をつけている。授業の中で集中して読むことができている成果と思われる。 ●書くことについては、両学年とも全国平均を下回った。			・「国語の勉強は、生活の中で役に立つ」ととらえている生徒は多い。 ・1か月に本を1冊も読んでいない生徒については、学力的に課題のある生徒の割合が高い。	・短作文、言語活動を継続的に取り組ませ、「書くこと」を習慣化させていきたい。	

2 社会

学年	【教科指導について】			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果	結果		
第1学年				<p>○暗誦や用語の反復練習などを積極的に取り入れることで、社会科授業に対する興味・関心をより高めることができた。</p> <p>●気候についての理解をもとにグラフを読み取る力が弱い。</p> <p>●聖武天皇の政治についての理解度が低い。</p>	<p>・重要語句の暗唱、穴埋め式の問題、単元末の小テスト、繰り返しテストにより知識・理解の定着を図る。</p> <p>・気候グラフを作成させ、グラフの特色や位置などを写真、地図帳を使い可視化し、理解度を高める。</p> <p>・各時代の文化を可視化し、理解度を高め、特色をまとめさせる。</p>
	思考・判断	+3.0	-1.7		
	技能	+3.0	-2.6		
	知識・理解	+3.0	-5.7		
第2学年				<p>○暗誦や用語の反復練習などを積極的に取り入れることで、社会科授業に対する興味・関心をより高めることができた。</p> <p>●世界と比べた日本の地域的特色を図やグラフから読み取る力が弱い。</p> <p>●江戸時代の政治改革について理解度が低い。</p>	<p>・資料館等と連携した実物や写真、動画などを使った指導工夫を行う。</p> <p>・世界と日本の気候グラフを作成させ、特色や位置などを可視化し、理解度を高める。</p> <p>・年代順に政治改革の一覧を作成し、その特色を丁寧に説明し、理解させる。</p>
	思考・判断	+2.0	-0.4		
	技能	+2.0	-3.2		
	知識・理解	+4.0	+1.4		
全体	<p>●第1学年では、特に知識・理解、第2学年では、思考・判断に課題がある。共通していることは、グラフや資料を読み取り、活用する力が低い。また権力者が行った政治に対する理解度も低い。</p>			<p>・「社会」の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒が全国平均よりも低い。</p> <p>・地図帳などを活用し調べている生徒が全国平均よりも低い。</p>	<p>・語句の暗唱、ドリルの繰り返し、継続した小テスト等により知識・理解を高める。</p> <p>・実物、写真、地図帳を効果的に使う。</p> <p>・授業や放課後を使い課題を個々にやりきらせる。そのための個別の指導時間を確保する。</p>

3 数 学

学 年	【教科指導について】			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果	【目標、結果については、全国平均との差を記入(%)】 ○これまでの取組の成果 ●課題			
第1学年	見方・考え方	+9.0	-10.8	<p>○数と式の基礎的な計算問題や比例・反比例の選択問題は全国平均を上回った。</p> <p>●文字式や方程式の正答率が全国平均を下回った</p> <p>●文字式、比例・反比例における説明記述の正答率が特に低い。</p>	<p>・「数学の勉強が好き」、「発表が好き」、「別の解き方も考える」への肯定的回答は全国平均を上回った。</p> <p>・「なぜ解けなかったか振り返り考える」が全国平均を下回った。</p>	<p>・日々の計算プリントの問題を精選し、分数を含む問題に継続的に取り組ませる。</p> <p>・課題場面をじっくり読み、説明記述を書くため穴埋めやヒントを出すなど課題に取り組みやすくさせる。</p> <p>・個別への支援を行う。</p>
	処理	+5.0	-4.0			
	知識・理解	+6.0	-1.4			
第2学年	見方・考え方	+4.0	-3.7	<p>○全体的には全国平均程度の正答率となった問題が多い。</p> <p>●$A=B=C$の形の連立方程式を解くことが全国平均を下回った。</p> <p>●数と式、1時間数の説明記述の正答率が特に低い。</p>	<p>・意識調査のすべての質問項目について、肯定的回答が全国平均を上回っている。</p>	<p>・日々の計算プリントの問題を精選し、$A=B=C$の形の連立方程式に継続的に取り組ませる。</p> <p>・課題場面をじっくり読み、書く活動の時間を確保する。生徒の活動(ノート)を評価することにより意欲を高めさせる。</p>
	処理	+6.0	-2.1			
	知識・理解	+4.0	-2.7			
全 体	<p>○毎時間の計算テストで基礎計算は定着しつつある。</p> <p>●解が分数になるものや与式が分数や小数のものについて全国平均を下回る。</p> <p>●理由の説明など、考えを記述する問題の正答率が特に低く、無答が多い。</p>			<p>・意識調査における肯定的な回答は2年生は全項目、1年生は1項目以外すべて全国平均を上回っている。</p>	<p>・調査結果をふまえて正答率の低い計算問題を精選し、繰り返し練習させる。</p> <p>・課題場面をじっくり読み問われていることを理解させ、説明記述する時間確保を行う。また、ノート指導による評価活動を行う。</p>	

4 理 科

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (%)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	科学的思考	+4.0	+1.0	○アンモニアの特徴および、シダ植物とコケ植物の理解について全国平均を6ポイント以上上回った。 ●質量%濃度の理解が全国平均を7ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の勉強は好きかという問いに対して肯定的な回答をした生徒が約76%おり、理科の勉強でわからないことを自分で調べようとする生徒の割合は約63%と全国平均の42%を大きく上回った。 ・実験観察が好きである生徒は全国平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一部で復習を兼ねた小テストを実施し、既習事項を忘れてしまわないよう配慮する。 ・自然現象や探究活動として実験・観察を行い、結果および考察を実験レポートにまとめ、発表する活動を充実させる。
	技能	+2.0	-2.6			
	知識・理解	+6.0	-1.7			
第2学年	科学的思考	+1.0	-2.6	○血液と背血球の働きと、身近な生物の特徴について全国平均を10ポイント以上上回った。 ●化学反応および、酵素の役割について全国平均を10%以上下回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の勉強を好きと回答が全国平均を下回り、理科の勉強でわからないことを調べようとする生徒の割合も全国平均を下回った。 ・観察実験は好きかという問いに対して肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均より高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一部で復習を兼ねた小テストを実施し、既習事項を忘れてしまわないよう配慮する。 ・授業の中でワークシートを活用し、実験や観察の時間及び、まとめの時間に十分時間をとるよう配慮する。
	技能	+2.0	-5.4			
	知識・理解	+3.0	-6.6			
全体	○生物の分類についてはよく理解している。 ●全体的に知識理解を問う問題の正答率が低い。 ●全体的に化学分野の計算や化学反応式の内容の理解が乏しい。			<ul style="list-style-type: none"> ・一年生は、比較的理科が好きで、積極的に学習しようとしている生徒の割合が多い。 ・二年生は一年生に比べ、理科の質問5項目中3項目は全国平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で復習のための小テストを行い、既習事項を常に確認する ・ワークシートを使い、実験観察の結果および考察をうまくまとめることができるよう指導していく。 ・予習タイムを設け、家庭学習とのつながりを作る。 ・ノートづくりの指導を行い、復習に活用できるようにする。 	

5 英語

学年	【教科指導について】			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果	結果			
第1学年				<p>○リスニング（対話文の応答）は全国平均より 5.6 ポイント上回った。</p> <p>英語による活動の指示と復習を兼ねて英問英答の対話を授業初めに行った成果と思われる。</p> <p>●3文以上の英作文は、全国平均より 14.4 ポイント下回った。覚えた単語や重要文を使ってまとまった内容で説明する英文を書くことに課題がある。</p>	<p>・英語の勉強は好きである。63.3%</p> <p>・英語の辞書をよく使いますか。40.0%</p> <p>・英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じる。73.3%</p> <p>・英語の学習への必要性を感じている生徒が多いが、辞書を用いて自主的に学習しようとする意欲に欠ける。</p>	<p>・既習事項の語彙や文法を使って、まとまりのある英文を書かせる練習を積ませる。その際、興味を持って書くことができるテーマを設定し、書くことへの意欲を持たせる。生徒の作品は、掲示やプリントにするなど、表現する楽しさを感じさせる。</p> <p>・辞書活用の頻度を増やす。</p>
	表現の能力	+6.0	-4.5			
	理解の能力	+5.0	+0.3			
	知識・理解	+5.0	-4.6			
第2学年				<p>○語彙の知識・理解は、全国平均を 9.2 ポイント上回った。</p> <p>毎時間の単語の小テストや家庭学習として繰り返し練習させた成果と思われる。</p> <p>●単語の並べかえによる英作文は、全国平均を 2.7 ポイント下回った。</p> <p>基本的な文構造の定着に課題がある。</p>	<p>・英語の勉強は好きである。80.0%</p> <p>・英語の辞書をよく使いますか。46.6%</p> <p>・英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じる。60.0%</p> <p>・英語の学習への興味は多くの生徒は高い。しかし、自ら進んで辞書を使うなどの意欲は低い。</p>	<p>・基礎・基本の力をさらにつけるため、繰り返しのドリル練習や語彙指導を継続して行う。また基本的な文構造の指導を再度行い、書いて表現させる活動を多く仕組む。</p> <p>・辞書を活用させる場を授業の中で増やす。</p>
	表現の能力	+10.0	+8.8			
	理解の能力	+6.0	+4.5			
	知識・理解	+4.0	+1.7			
全体	<p>○長文読み取りやリスニングの力は高い。繰り返し書いて覚える家庭学習の取組や毎時間の小テストの実施、語彙や英文法のドリル練習による成果が見られる。</p> <p>●自分の伝えたい内容を、英文につながりを持たせながら、まとまりのある英文を書く活用に課題がある。また、英文を正しい語順で英文を書くことに課題がある。</p>			<p>・英語の学習をしたことで、生活の中で役に立つと感じているが、自主的に学ぼうとする生徒は少ない。また辞書の使用頻度が少ない。</p>	<p>・書く力をつけるため語彙の定着を図り、まとまりのある英文を書かせる指導を行う。</p> <p>・既習事項を使わせながら活用力を伸ばす。</p> <p>・辞書の使用頻度を増やす。</p>	

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	○一層定着させたい点 ●改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○「勉強は大切だ」という生徒が全体の96.7%と高い。</p> <p>●「学校の授業は楽しい」では、肯定的意見が46.7%と全国平均よりも8ポイント低い。</p> <p>●「ふだん家庭でしている勉強」については、宿題がある時以外もすると答えた生徒が全国平均よりも14.4ポイント低い。</p>	<p>・指導者側の授業改善の一層の促進。(授業アンケートをもとにした)</p> <p>・特に「宿題があるときだけする」が46.7%と高いので、各教科の宿題の出し方等を全体で研修し工夫する必要がある。また宿題忘れについては、放課後に確実に取り組ませ、保護者連絡を一層密にしていく。</p>
第2学年	<p>○「勉強をすれば、自分のふだんの生活や社会に出て役に立つ。」では、肯定的評価が全国平均80%に対して、本校では91%である。学習に対して肯定的に受け止め、取り組んでいると考える。</p> <p>●「学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。」の「1時間以上、2時間より少ない」は全国平均38.7%に対して、本校では27.3%である。全体的に勉強時間が少ないことが課題である。</p>	<p>・進路決定に向けて、家庭学習が日々の宿題や定期テスト等だけの取組にならないように、個々の生徒へ学習方法等の指導を徹底していく。家庭との連携を密にし、家庭学習環境づくりの協力関係を深める。</p> <p>・教科担当との連携を図り、課題をやりきらせる指導を行う。</p>
全体	<p>○「勉強は大切だ」「勉強をすれば、自分のふだんの生活や社会に出て役に立つ」という問いに対して肯定的評価が全国平均より高い。</p> <p>●家庭学習が全国平均よりも全体的に低い。また、家庭学習を「宿題があるときのみにかしない」と答えた生徒が多い。</p>	<p>・各教科で自学力の向上を目指すため、授業と家庭学習とのリンクや、予習の推進、ノートのとおり方、まとめ方の指導を全教科で推進していく。</p> <p>・引き続き自主学習ノートの取り組みを進めていくとともに、課題の工夫、個に応じたノートの指導を行っていく。</p>